

日本大学工学部

# 校友会報

第54号

平成3年3月1日

## 目次

ごあいさつ(工学部長、校友会長) .....	2
平成2年度第33回通常総会報告 .....	3~4
校友会役員名簿 .....	5
第10回母校を訪ねる会報告 .....	6~8
校友レポート(大越茂俊) .....	9~11
若葉マークがんばり記(渡辺美智子) .....	12
校友エッセイ(渡沢正典、鈴木 守) .....	13~14
キャンパスミニメモ .....	15
同窓会便り、校友短信 .....	16~19
総会通知 .....	20



日本大学工学部・東北高校全景(昭和63年夏撮影)

管理棟(中央時計台の建物) —昭和37年竣工—  
(建替えの予定、平成3年~4年)

情報研究棟(中央右、8階建) —昭和63年竣工—



日本大学工学部長

國分欽智

平成2年7月17日工学部長に就任して、早くも半年余が経過しました。この間皆様のご協力によって、就任当初の私の抱負である学部運営の改革が、順調に進展していることをまず報告し、皆様に心から御礼を申し上げます。思えば昨年9月8日に母校出身初の学部長として、校友会の皆様から盛大な祝賀会を開催していただき、多大のご祝意と激励のお言葉を賜りました。この日の感激はいつまでも私の胸に残り、私をしっかりと支えてくれるものと思います。本当にありがとうございました。この祝賀会のあいさつで、私は“第1回の卒業生として、工学部の草創期における生みの苦しみと喜びを忘れることはできない。温故知新、当時の学生としての問題意識、その克服と喜びの体験をもとに、学部発展のために全力を尽くします”と約束しました。

さて移設後40数年間の校友会の皆様それぞれの時代の学部建設のご努力、社会における目覚ましいご活躍とその評価があったればこそ、現在全国有数の工学部に発展することができたのです。私は校友会の皆様のこの実績をもとに、21世紀を展望する工学部の基礎造りに邁進したいと考えております。新世紀は国際化の時代と言われます。大学国際化の第一義は欧米先進諸国の大学と同一レベルの教育と研究をもつということです。あたかも今年3月には大学審議会から最終答申が出ることとなりますが、すでに中間答申で示されたように、これまでの大学設置基準は大幅に緩められ、各大学に特色ある運営、学科構成とカリキュラムの改革をさせ、魅力あふれる大学造りを要請されることは必至であります。私は広く教職員の意見に耳を傾け、時宜に応じ、私の抱負によってこれをリードしつつ、諸先輩から後輩たちへ立派な学園を橋渡ししてゆきたいと思っております。

私の教育目標は個性尊重による人間形成と創造性の育成であります。現代の学生たちも新人類といわれながら、やはり諸先輩と同様に豊かな個性をもっています。それゆえ私は学生達に個性を自覚させ、失敗と挫折を恐れず、自信をもって仕事に挑戦する行動力と従来の考え方にとらわれずに自由に発想する創造力を育成したいと考えています。これらの達成には何よりも全教職員の学生への深い愛情が必要であります。工学部を“学究への情熱と学生への愛情あふれる学園”にしたい、これが私の工学部運営の理念であります。

校友会の皆様、今後とも工学部発展のため大きな力をお寄せくださるようお願い致します。皆様のますますのご活躍とご健勝を祈念し、あいさつと致します。

## ごあいさつ



日本大学工学部校友会会長

武田仁幸

全国各地でご活躍の校友諸兄にはご健勝のこととお慶び申し上げます。平成2年度の総会において再々度会長職を拝命いたし、身の引締る思いであります。もとより浅学非才な私ではありますが、校友諸兄のご協力と新役員のご支援により勤めて参る所存でありますので、何卒よろしくお願い致します。

日本大学を卒業した校友の数は、65万余名に達しております。その社会的活動の状況は、最近の本学への入学志願者の多さによっても実証され、ここ数年は、トップの座を維持しております。中でも我が工学部への志願者の数が、年々増大の傾向を示しているのも、開設40数年の歴史と、3万余名に及ぶ工学部校友諸兄のご活躍があればこそと思います。

また、工学部は、優秀なる教授陣を揃えて研究教育の充実を計り、郡山市を中核とするテクノポリス推進機構に参加しております。地域企業と一体となった研究課題も年毎に増加し、質的にも向上し、学部当局では嬉しい悲鳴と聞きおよんでおります。もし、校友各位に学術的情報や研究面でのご協力などで、母校にお願いしたいことがありましたならば、校友会事務局にご相談下さるか、あるいは、直接学部当局にご連絡下さい。必ずやご希望に添えるものと存じます。

平成2年7月に、電気工学科の國分欽智教授が工学部長に就任されました。國分先生は、本学専門部工科の第1回の卒業生であり、また工学部電気工学科の第1回卒業生でもあります。先生は卒業後、ただちに母校に奉職されましたが、この間、日本大学附属東北高校の教員も歴任されるなど、本学の発展と共に歩んで来られた方の一人であります。もとより、先生には校友会活動に積極的なご支援を賜っておりますが、平成2年9月に、國分工学部長就任祝賀会を開催し、労をねぎらうと共に、今後のご活躍を祈念いたしました。祝賀会には、学部教職員の方々をはじめとし、多数の校友が参加されましたが、國分新学部長の、温和で誠意あるご挨拶には、みな胸を熱くいたしました。

日本大学本部では、平成2年9月に、日本大学新総長に木下茂徳教授が就任されました。新しい日本大学を目指し、新執行部も若き布陣となりました。木下先生は、理工学部長としてご活躍され、また、日本建築学会の会長職を歴任されたこともあり、国際的感覚を持たれた方で、日本大学百年の歴史の中では、初めて、工科系からの総長とされました。日本大学新総長木下先生のもと、日本大学の益々の発展を心から祈念いたします。末筆ですが、校友各位のご精進とご活躍も、ともに祈りいたします。

## 平成2年度第33回通常総会報告

日本大学工学部校友会第33回通常総会は、平成2年4月21日(土)午後2時から日本大学郡山研修会館において、開催されました。

当日は、遠路にもかかわらず、北海道、東京、東海、九州、四国の各支部の役員の方々をはじめ、多数の会員が出席されました。今年の春は、例年になく早く訪れたものですから、学内や開成山の桜にはすでに花はなく、懐しい郡山の桜花に会うことはできませんでしたが、ひさかた振りに会う会員の皆様の語らいの中には、いつもの様に満開の桜花があるようでした。

さて、総会は、定刻に佐藤(吉)副会長の開会のことばをもって始まり、次いで武田会長よりご挨拶があった。会長はこの中で、本学創立百周年記念事業に対する会員各位のご協力ご支援に深く感謝の意をのべたあと、本年度が工学部校友会の役員改選期に当たっていることから大要次のような開陳があった。

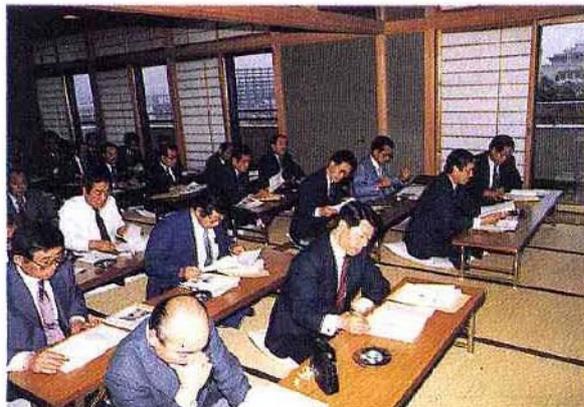
昭和33年、工学部校友会が発足して以来、渡辺・関根・根本・武田・太田・松山の各氏に会長を引受けていただきましたが、私は、以前の一期を含め昭和53年から今期まで、通算15年も会長職を勤めさせていただ



きました。この間ご協力いただいた役員の皆様には感謝いたします。平成2年度には、是非新しい方を会長にお迎えして、本会の発展を期していただきたい。

挨拶が終わったとき、会場からは、労らいとお賞めのことばがとび、会長の真摯な気持は理解されたようでした。ついで、議長選出へと進行し、佐藤幸助(土3回)氏が選任され、ご挨拶の後、議事録署名人に佐藤司(土5回)氏と佐藤満夫(建6回)氏、書記に加藤木研(電12回)氏と小野信太郎(土29回)氏を選んでただちに議事に入った。

議事は、報告第1号 平成元年度会務報告について  
承認第1号 平成元年度一般会計収支決算について  
承認第2号 平成元年度特別会計収支決算について



議案第1号 平成2年度事業計画について  
議案第2号 平成2年度一般会計収支予算について  
議案第3号 平成2年度特別会計収支予算について  
議案第4号 役員選出について

などで、議事の進捗状況については、先ず、村田事業部長(土12回)より、報告第1号で、平成元年度の会務運営について説明がなされ、同時に、会員や、財産の状況についても報告があった。議長がこれを諮ったところ、異議もなく了解された。

ついで、佐藤副会長より、承認第1号、同第2号が一括して提案され、詳細なる説明があった。ひきつづきこれら予算運営に関する監査結果について、佐々木崇(土3回)氏と橋本寛(建10回)氏より、適正である、との報告があり、拍手の中に承認された。

議案第1号は、村田事業部長が提案説明を行った。中でも、就職促進の援助については深い関心が示された。審議の結果議決された。

議案第2号、同第3号は、佐藤副会長が提案し、概要の説明を行った。審議の結果、異議なしの声と共に、議決された。

議案第4号は、会則にのっとり、役員立候補者が1名



有る旨、佐藤光正事務局長(機9回)より報告があったので、議長の指示により、立候補者手塚公敏(土16回)氏が紹介された。その後、候補者の当落も含めて、役員を選出は、役員選考委員会に一任することに決し、委員として、後藤尚(化3回)、三浦昌雄(土14回)、鈴木守(電16回)、河井宏文(機9回)、久野清(建21回)の5名が選ばれ、別室にてただちに選考に入った。この間会場では若干の空時間を利用して各支部長から、支部の活動状況の紹介があったが、程なくして、後藤役員選考委員長が戻り、5ページに示したとおりの役員名が発表された。特記すべきは役員世代交替を強く示唆した武田前会長が、再び会長に任命されたこととあります。



会場からは異議なしの声と共に盛大なる拍手を受けて、校友会の新しい役員が議決された。

以上で議案審議は終了した。その他の議事では、四国支部長より、県単位の支部をとの意見があったが、武田新会長から、運営と予算の両面から実現は困難なので、要望にできるだけ添うために、広島支部と大阪支部の構想について説明があり了解された。真剣に議事を進めているうちに予定の時間となり、事務局長の閉会のことばをもって、総会は終了した。

その後校友会本部役員や他学部校友会会長ならびに工学部長を来賓としてお迎えして、引続き懇親会に移った。宴はつづいたが、校歌斉唱をもってお開きの締とし来年の再会を約して散会した。



## 平成元年度一般会計収支決算書

歳入		単位 円 △……減			
款項	種 目	予算額	決算額	比較増減	附 記
会費	1 終身会費	10,000,000	11,430,000	1,430,000	
	2 入会金	10,000,000	11,350,000	1,350,000	
	計	20,000,000	22,780,000	2,780,000	
繰越金	3 前年度繰越金	6,081,473	6,081,473	0	
	計	6,081,473	6,081,473	0	
繰入金	4 基本財産より繰入金	0	0	0	
	計	0	0	0	
雑入	5 附金利子	10,000	87,002	77,002	
	6 職員負担金	0	0	0	
	7 名簿代金	0	0	0	
	8 雑収入	18,527	1,535,500	1,516,973	
	計	28,527	1,622,502	1,593,975	
	計	26,110,000	30,483,975	4,373,975	

## 歳出

款項	種 目	予算額	予算現額	決算額	残 額	附 記
事務費	1 給料手当	4,130,000	4,130,000	3,899,262	△230,738	
	2 保険料	309,000	309,000	228,736	△71,264	
	3 交通費	520,000	520,000	482,000	△38,000	
	4 旅費	80,000	80,000	75,320	△4,680	
	5 交際費	400,000	411,500	411,500	0	
	6 業務用費	170,000	181,495	181,495	0	
	7 備品費	80,000	80,000	72,100	△7,900	
	8 印刷製本費	190,000	190,000	251,548	△61,548	
	9 通信運搬費	240,000	251,997	251,997	0	
	10 修繕維持費	10,000	10,000	0	△10,000	
	11 光熱水費	40,000	40,000	0	△40,000	
	12 分担金	400,000	400,000	400,000	0	
	13 雑費	275,000	375,000	369,580	△5,420	
	計	6,835,000	7,031,540	6,623,538	△408,002	
事業費	14 組織対策費	1,000,000	1,000,000	759,880	△240,120	
	15 会報発行費	3,000,000	3,636,642	3,636,642	0	
	16 会員管理費	1,800,000	1,945,978	1,945,978	0	
	17 名簿作成費	515,000	515,000	410,725	△104,275	
	18 下部対策費	10,000	10,000	6,562	△3,438	
	19 図書供与費	400,000	400,000	400,000	0	
	20 式典費	2,060,000	2,113,696	2,113,696	0	
	21 母校訪問費	200,000	200,000	159,377	△40,623	
	22 負担補助奨励金	600,000	600,000	600,000	0	
	23 100周年記念寄付	3,500,000	3,500,000	3,500,000	0	
	計	13,085,000	13,921,316	13,523,860	△397,456	
会議費	24 総会費	1,400,000	1,400,000	1,223,884	△176,116	
	25 役員会費	290,000	290,000	227,520	△62,480	
	26 連絡協議会費	500,000	500,000	198,000	△302,000	
	27 旅費	1,000,000	1,000,000	776,830	△223,170	
	計	3,190,000	3,190,000	2,426,234	△763,766	
繰出金	28 職員退職給付 特別定年退職金	300,000	300,000	155,400	△144,600	
	計	300,000	300,000	155,400	△144,600	
積立金	29 積立金	1,000,000	1,000,000	1,000,000	0	
	計	1,000,000	1,000,000	1,000,000	0	
予備費	30 予備費	1,700,000	667,144	0	△632,856	
	計	1,700,000	667,144	0	△632,856	
	合 計	26,110,000	26,110,000	23,729,032	△2,380,968	

歳入額 30,483,975円  
 歳出額 23,729,032円  
 差引残額 6,754,943円を翌年度へ繰越しとする。

## 財産の状況(平成2年3月31日現在)

一般会計	引当財産	運用財産	合 計
6,754,943 円	2,550,494 円	13,881,718 円	23,187,155 円

自 平成2年度  
至 平成4年度

## 日本大学工学部校友会役員名簿

(平成2年7月末現在)

役名	卒業	氏名	勤務先	役名	卒業	氏名	勤務先
顧問	電1	國分 欽智	日本大学工学部長	評議員	土14	三浦 昌雄	前田製管(株)郡山営業所
参事	土1	渡辺 幸夫	福島県建設技術センター	〃	電16	鈴木 守	日本大学東北高等学校
〃	電2	関根 昭一	日本大学東北高等学校	〃	建19	田中 敏夫	郡山市役所
〃	機1	菅野 宗和	日本大学工学部機械工学科	〃	建19	藤田 延幸	藤田建築設計事務所
〃	化2	菊池 光子	日本大学工学部工業化学科	〃	機19	森谷 信次	日本大学工学部機械工学科
〃	化2	後藤 尚	〃	〃	化19	野田 吉弘	日本大学工学部工業化学科
〃	化3	高野 操	〃	〃	化20	日下部 良	日本パーオキサイド(株)
会長	土3	武田 仁幸	東和工業(株)	〃	土21	渡辺 信一	郡山市水道局
副会長	土6	佐藤 吉新	(株)共立コンサル	〃	建21	堀井 勝典	堀井勝典建築研究所
〃	化6	半沢 忠	パラマウント硝子工業(株)	〃	電21	池上 秀幸	郡山市水道局
事務局 局長	建10	橋本 寛	日本大学工学部建築学科	〃	建22	水上 崇	安積興産(株)
理事 部長	土12	村田 吉晴	日本大学工学部土木工学科	〃	機24	石井 貞志	ひさき設計(株)
理事 部長	電16	伊藤 義人	郡山市水道局	〃	土26	杉崎 一馬	(株)郡山地質調査事務所
理事 部長	土3	松山 光克	郡山市役所	〃	化27	水晶 幸意	(株)常電舎
理事 部長	建3	木村 圭二	郡山市水道局	〃	土28	遠藤 正泰	遠藤建設工業(株)
〃	建14	渡沢 正典	日本大学工学部建築学科	〃	建28	藤山 寿一	(株)藤山工務店
〃	電14	伊藤 宜世	オーディオ開成(株)	〃	土29	小野信太郎	日本大学工学部
〃	土16	手塚 公敏	赤坂事務所	〃	土31	阿部 充宏	阿部測量(株)
〃	化16	野尻大五郎	郡山市水道局	東支 部	土3	古村 和夫	古村建設(株)
〃	電20	曾部 忠義	郡山市水道局	東支 部	土3	平野 卓	東京エンジニアリング(株)名古屋支社
〃	建21	久野 清	久野学園	東支 部	土14	松山 忠牡	東急建設(株)札幌支店
会計 監査	土3	太田雄八郎	郡山総合体育館	東支 部	建10	湯村 筑後	福岡県土木部
〃	建8	古橋 栄吉	日本大学東北高等学校	東支 部	土8	谷久 嘉典	榎谷久工務店
〃	土13	石井 和樹	日本大学工学部土木工学科	事務 職員		橋本 常吉	事務局
評議員	機9	佐藤 光正	日本大学工学部機械工学科	事務 職員		河内美知子	事務局
〃	電12	加藤木 研	郡山市役所				

### 〔事務局便り〕

○工学部校友で本部の役職などについている人は下記の通りです。

学校法人日本大学

評議員 松山光克(土3回卒)平成2年9月から  
日本大学校友会

常任委員 武田仁幸(土3回卒)平成2年6月から

〃 半沢 忠(化6回卒) 〃

委員 佐藤吉新(土6回卒) 〃

○第8回日本大学校友会工科系連絡会が工学部校友会の受けもちで、平成2年9月4日、郡山ビューホテルで開かれた。

工科校友会(理工学部)、生産工学部校友会、薬学部校友会、工学部校友会から33人が参加した。また各学部長も出席され、有意義な話し合いが行われた。特に校友会会員名簿は4学部共通のものがないかどうかなど多くの提案があり、各単位校友会に宿題としてもちこした。

○日本大学工学部と校友・校友企業との懇談会が、工

学部と工学部校友会の主催で、平成2年6月9日に工学部会議室で行なわれた。出席した企業は72企業(91名)で、求人や求職について多くの発言があった。校友企業としては在学生にアピールしたいと言う意力が感じられた。

○事務局職員が田中孝さんから橋本常吉さんに代りました。(平成2年11月1日付)

○この校友会報に校友企業の広告を受け付けたいと思います。全ページ8万円の割合ですので、例えば、 $\frac{1}{8}$ (天地5cm、左右6.6cm)なら1万円です。校友会事務局までご連絡下さい。

### 第11回母校を訪ねる会

日時 平成3年10月27日(日) (予定)

対象 第19回卒業生(昭和46年3月卒業)

該当しない校友の参加も歓迎。なお、前日同級会など開催され多数出席されるようお待ち致します。

## “母校を訪ねる会” 第10回目を迎えて



平成2年10月28日(日)秋晴れの日、第10回母校を訪ねる会が催されました。今回の対象は第18回卒業生(昭和45年3月卒)で、大学卒業後20年目に工学部と校友会



が共催でご招待しました。

昭和56年度に第1回目を開催して以来、本年度で第10回目を数えるようになりましたが、この間に出席された校友は、累計で747名となります。

学窓を卒業されて20年目にして母校を訪れた人も多く、十年一昔と申しますが、二昔も過ぎ去った現在、



学生達の姿の中に、かつての青春時代を送った自分の若き日を思い出したことでありましょう。特に今回の出席者は学生時代は、大学紛争を経験した貴重な時期でもありました。そして、社会に出て無我夢中で生きてきた20年ではなかったでしょうか。

当日は、学部祭(北桜祭)最後の日でもあり、日曜日と天候にも恵まれ学内は大へんな賑わいでした。学内を訪れた卒業生は、かつて学んだ恩師の研究室を訪ね

たり、学内を見学したり、自分が所属したクラブの様子を見たり、吹奏楽部の歓迎ドリル演奏に拍手を送ったりして午前中を過ごしました。11時30分に出席者や、関係者一同が中庭に集まり、情報研究棟を背景に記念写真におさまりました。

午後は中講堂において、岡分欽智学部長の挨拶や武田仁幸校友会会長の挨拶、そして大学から学部の近況報

告などがありました。ひき続いて同所大会議室で懇親会が行われました。懇親会では学生時代お世話になった恩師の先生方も多数見えられ、学生時代の思い出話や現在の自分の報告やらに話の花を咲かせて大いに盛り上りました。各学科の卒業生からスピーチなどもありましたが、校友と母校の更なる発展を祈って万歳三唱し、またの再会を約束して午後2時30分に散会しました。

## 土木工学科の20年目の同級会

幹事 日下 健一

平成2年10月27日午後6時半、郡山駅前国際ホテル、懐かしい顔が次々と集まって来た。ようやく！懐かしさを込めて挨拶をしたかと思うと、どうも見たように見知らぬ顔に互いにじっと見つめ合うと言う不思議な光景が会場いっぱい広がって居る。20年と言う歳月は未だ童顔の残っていたあの頃の我々にも可成りの変化のあったことを思い知らされた。

同級の48名と恩師の木村、杉内両先生、更に校友会の武田会長を迎えての同級会が開催されました。恩師の益々のお元気さに我々も急に20年をさかのぼって昔の日大生に戻ったような気持ちになってきました。次々と昔の話に花咲いて飲むほどに酔うほどにつきせぬ思い出にふけるばかりでした。

我々ももう40うん才になりそれぞれその部門では指導者に成っておりますが、何と云っても日大工学部の同窓生が何時も我々を陰に陽に引き立ててくれていることは我々自身が一番良く知っているところでもあり、特に同級の絆の固さをこの20年感じさせられて参りました。

この度分かったことですが同級生で郡山の女性を妻にしているものが十数名もいることもなんとなく我々の在学時代の陽気で青春を楽しんだこととも判明して愉快な一夜でありました。2次会に集うもの、更に翌日まで飲み続けてもう一日泊まるものもあり、本当に楽しさばかりでなく今後の活力の糧にもなった同級会であり、つくづく日大工学部の良さを身に沁みて味わうことのできた同級会でした。日本大学工学部の益々の発展を祈ります。



(追記)27日当日、12名が参加して、郡山熱海ゴルフクラブで親善ゴルフコンペを開きました。

優勝:東条君、準優勝:望月君でした。

(土木工学科第18回卒 榎山元工業所専務取締役)

## 建築学科18回卒同級会

幹事 杉田 秀一

建築18回生は郡山市の国際ホテルにおいて10月27日に同級会を開催しました。今年は母校を訪ねる会の年にあたり、郡山在住の同級生が発起人となり今年初めから準備し、当日は遠く北海道、三重、長野、静岡、東京等から42名の同級生が出席し盛大に開催されました。大学からは、佐藤平先生、谷川正己先生、福地利夫先生をはじめ9名の先生方に参加いただき大学の近況等を聞きました。校友会からは橋本事務局長に参加いただきました。20年振りに会う同級生もおもひなつかしみ夜遅くまで歓談し楽しい一夜をすごしました。また宴会の最後には当時応援団長だった浦君の音頭で、校歌、日大節を歌い大いに盛りあがりました。なお、当日有志20人でゴルフコンペが行なわれ大いに汗をながしました。初めてゴルフをする人、シングルハンディに近い人、それぞれ思い思いのプレーに大きな喚声があがり楽しいひとときを過ごしました。この次の同級会にはさらに多くの同級生が参加出来る事を希望いたします。報告といたします。

(建築学科第18回卒 郡山市役所勤務)



## 機械工学科の20年ぶりの同級会を終えて

代表世話人 安齋 作一

機械工学科第18回ご卒業の皆様、この度、ここ郡山の地におきまして小野沢元久先生・柳沼福夫先生・佐

藤光正先生のご列席を戴き和やかなうちに同窓会を終えることが出来ましたことをご報告致します。地元に残っている諸兄はもちろんのこと、茨城県、群馬県、神奈川県、静岡県、そして遠くは愛知県豊田市からも参加を戴きまして盛大に開催することが出来ました。幹事の一人としてお礼申し上げます。

さて、同級会の模様を会報に載せて戴けるとの連絡を頂戴し、早速ペンを取った次第であります。文章にしますと臨場感が伝わりにくいのですが、今回参加された皆様は、20年という時を超え、まるで学生時代に戻ったように、時間の経つのも忘れて語りあかしたひとときでありました。一人一人に近況報告をして戴きましたが、マイクを持って話されるその目は自信に満ちて輝き、それぞれの立場で頑張っている様子をまざまざと感じさせてくれました。参加されたかた方は何よりの一日を過ごされたのではないかと考えております。幾つになっても同級生の集いは胸をワクワクさせる何かがあると思います。何かの因縁があって同世代に生を受け、偶然から同じ大学で机を並べた事実は厳然としてあるのです。共に青春の一頁を送った同級生との語らいほど、心を和ませてくれるものはないと非常に強く感じた次第であります。また必ず開いて欲しいとの要望も戴きましたし、幹事として皆様に喜んで戴けるものであれば、一肌も二肌も脱ぎたいと考えております。何年後になるかわかりませんが、必ず開催することをお約束いたします。その時は、一人でも多くの皆様にご参加を戴きたいと存じます。そして、おおいに語り、おおいに飲みたいものだと思っている次第であります。

(機械工学科第18回卒 ㈱郡山檜崎製作所勤務)



## 第18回卒業電気工学科同級会

幹事 木元 敬一

母校を訪ねる会の前日、20年前の卒業生が集まりました。平成2年10月27日(土)午後6時より郡山駅前の国際ホテルに電気工学科の卒業生25名が集い、同級会が盛大に豪華に行なわれました。恩師の松塚勇先生と宍戸敏雄先生を迎え、二次会、三次会と旧交をあたためました。この同級会は今回で2回目であるが、次回からはオリンピ

ックのある年に再会することを約束して別れました。

(電気工学科第18回卒 郡山化成㈱勤務)



## 工業化学科18回卒クラス会

幹事 鈴木 忠人

我々第18回生も、卒業後早20年を過ぎ、本年は恒例の母校を訪ねる会の年にあたりました。この機会にと同級会の開催を計画し、14名ながら出席を得て実施致しました。又、恩師4名の出席も頂き、さらには、校友会の御挨拶、多大なる心づかいを頂き感謝の意に絶えません。

さて、20年ぶりに再会した我々は、昔の面影を残しながらも、白髪が目だつ人(特に筆者)、十五夜に近づく人と、それぞれ今風に変身しておりました。懐かしき青春時代のキャンパスでの思い出を語り合う様は、白髪にも似合わず童心そのもののような雰囲気にかえり、楽しく過ごした一夜でした。二次会、三次会と時を過ごし、語り合う仲間達は新たな青春の一時でもあるようでした。楽しかった思い出、悲しかった思い出、その中には忘れてはならない学園紛争もありました。

しかし、語り合う仲間達には、単なる一ページでしかなく、希望の途として学んだわが学舎に、今、我々の二世達が目ざす時期を迎えております。すっかり様変わりした学舎は、当時の木造校舎もなく、緑に閉れた様子に感動の情で一杯でした。そして、又の再会を約束し、数年に一度の開催を目指し、我学舎に一粒の涙を残し、再度の別れを迎えました。今回参加出来なかった仲間達……次回に必ず逢おう……。

(工業化学科第18回卒 福島県福島保健所勤務)



# 福島空港建設の概要について



## 1. はじめに

昭和40年3月に卒業して、早や25年を経過しました。4、5年前の「母校を訪ねる会」にも出席できず、校友会の皆さんには礼節を欠しているところであります。

現在は、福島県土木部に籍をおき、県の主要プロジェクトである「福島空港」の建設に携って、調査・設計で2年、建設現場で2年と早や4年間を経過しようとしております。

ここに福島空港建設の概要を紹介いたします。

## 2. 県政の主要プロジェクト

福島県では、21世紀に向けて、県民のニーズに的確に対応するため、高速交通体系の整備や大規模プロジェクトの推進に努めている。

なかでも、福島空港の整備や東北磐越自動車道（いわき・新潟間）の建設をはじめ、郡山地域テクノポリス計画、阿武隈地域総合開発計画、会津フレッシュリゾート構想、また、平成7年度に開催予定されている第50回国民体育大会の関連施設の整備など、大型プロジェクトが目白押しで、21世紀に向けた「活力と魅力ある県土づくり」を目指しているところである。

## 3. 福島空港建設の目的

近年の著しい社会情勢の変化に伴い、人や物や情報の交流を円滑に行うことが一段と重要性をまし、高速交通体系の整備は急務となっている。

このため、「第四次全国総合開発計画」では、それぞれの機能を分担した総合交通ネットワークの整備を多極分散型国土形成の重要な手段として位置付けており、「全国一日交通圏」の確立のため、空港の整備とコミュニケーター航空を含めた航空網の充実がうたわれている。

本県では、空港のない現在でも、羽田・仙台等の近接空港を利用して、年間26万人以上の航空旅客があるものと推測されている。

また、国内航空ネットワークの現状を見ると、福島県を中心とした南東北及び北関東の一带が、航空サービスをおおむね1時間程度で享受できない、いわゆる空港空白地帯となっている。

一方、本県は全国でも有数な観光資源や農林水産物を有しており、近年、さらに工場立地条件が整備されて、工業製品などの出荷額も順調に増加している。

これらを広く全国に提供し、本県産業の振興と県民生活のより一層の向上をはかり、本県が21世紀に向けて着実に発展していくためにも、空の交通の玄関となる空港の果たす役割はきわめて重要である。

## 福島県空港建設事務所

## 所長 大越 茂俊

このような状況を踏えて、昭和54年度以来、調査検討を重ね、総合交通体系の確立を図ると共に、航空需要に対応した飛行場を整備し、地域開発の拠点として位置付け、産業・経済・文化の振興をめざして、須賀川市・玉川村にまたがる阿武隈山地の丘陵地に空港を建設することとした。(図-1参照)

図-1 福島空港位置図



## 4. 福島空港整備計画の概要

整備計画の概要は表-1、表-2のとおりである。

表-1 福島空港の概要

1	飛行場の名称	福島空港(第三種空港)																												
2	飛行場の位置	福島県須賀川市・玉川村																												
3	標点の位置	福島県須賀川市大字理森字五十廻田73番地 北緯37度13分36秒 東経140度25分58秒																												
4	標点の標高	372.6m																												
5	飛行場の種類	陸上飛行場																												
6	着陸帯の等級	C級																												
7	制限表面	進入区域の長さ 3,000m 進入表面の勾配 50分の1 水平表面の半径 3,000m 転移表面の勾配 7分の1																												
8	飛行場の施設	敷地面積 1,212,182㎡ 着陸帯長さ 2,120m 幅 300m 滑走路長さ 2,000m 幅 45m 舗装 舗装 アスファルトコンクリート 舗方 舗方 北2度12分00秒東 誘導路延長 190m 幅 30m 舗装 舗装 アスファルトコンクリート エプロン面積 23,100㎡ 舗装 舗装 セメントコンクリート バース数 中型ジェット用 2バース 小型ジェット用 2バース 計 4バース																												
9	設置予定の航空保安施設	航空灯 進 入 灯 滑 走 路 灯 誘 導 路 灯 エ プ ロ ン 灯 電 源 投 入 備 付 帯 設 備 航空保安無線施設 VOR/DME、ILS																												
10	供用開始予定期日	平成5年3月31日																												
11	運用予定時間	11時間30分																												
12	事業費 (百万円)	<table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>土木施設</th> <th>照明施設</th> <th>無線施設</th> <th>建築施設</th> <th>気象施設</th> <th>計</th> </tr> <tr> <td>食田・補助</td> <td>22,825</td> <td>2,321</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>25,146</td> </tr> <tr> <td>直 轄</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>1,178</td> <td>257</td> <td>165</td> <td>1,540</td> </tr> <tr> <td>空港整備費</td> <td>22,825</td> <td>2,321</td> <td>1,178</td> <td>257</td> <td>165</td> <td>27,286</td> </tr> </table>	区分	土木施設	照明施設	無線施設	建築施設	気象施設	計	食田・補助	22,825	2,321	-	-	-	25,146	直 轄	-	-	1,178	257	165	1,540	空港整備費	22,825	2,321	1,178	257	165	27,286
区分	土木施設	照明施設	無線施設	建築施設	気象施設	計																								
食田・補助	22,825	2,321	-	-	-	25,146																								
直 轄	-	-	1,178	257	165	1,540																								
空港整備費	22,825	2,321	1,178	257	165	27,286																								

表一 2 就航予定路線の需要予測

単位：千人

路線		平成7年度		平成12年度	
千	歳	122	6便	172	6便
名	古	85	6便	113	4便
大	阪	317	6便	423	8便
福	岡	69	4便	87	4便
計		593	22便	795	22便



5. 空港建設全体工程及び工事進捗状況

工事の全体工程は表一3のとおり、昭和61年度よりスタートし、平成5年3月の開港を目指し、工程どおり順調に進捗している。

昭和61年10月に福島空港の政令指定を受けて、実施設計および調査に着手し、昭和62年度には、空港建設に伴う損失補償に関する協定を締結し、用地買収に着手し、地権者会の理解と協力により、2ヵ年間で、ほぼ買収を完了させることができた。

昭和63年度には、土砂流出防止を含めた防災調節池工事、工事中用道路に加えて、空港本体の用地造成工事に着手し、次年度以降の基礎資料や設計歩掛、品質管理のための試験盛土、堀削、転圧調査を実施した。

続く平成元年度は、用地造成工事の本格的な工事を進めた年であり、大型機械の投入により、全体土工量(切土量約1,050万㎡、盛土量1,050万㎡)の約半分となる47%の進捗を見たところである。

平成2年度は、空港本体、空港アクセス道路および空港公園の整備事業費が120億円(うち空港整備費は約85億円)の投資により、年度末で土工量で94%の進捗となり、写真一1、写真一2のとおり、飛行場としての形成が見え、ほぼその全容が表われてきた。

表一 3 福島空港建設工程表

項目	年度								
	昭和61年度	昭和62年度	昭和63年度	平成元年度	平成2年度	平成3年度	平成4年度		
特記事項	中継 告示 実施調査							検査 フライト チェック	
土木	用地買収	[進捗]							
	補償工事		[進捗]						
	土工		[進捗]						
	芝工		[進捗]						
	排水工		[進捗]						
	擁護工事		[進捗]						
	ILS用地造成		[進捗]						
	滑走路新設					[進捗]			
	誘導路新設					[進捗]			
	エプロン新設					[進捗]			
照明	道路・駐車場						[進捗]		
	場外排水施設						[進捗]		
	消防施設						[進捗]		
	標準式進入灯						[進捗]		
	進入灯橋梁						[進捗]		
	簡易式進入灯						[進捗]		
	進入灯台						[進捗]		
	滑走路灯台						[進捗]		
	誘導路灯台						[進捗]		
	エプロン灯						[進捗]		
無線	飛行場灯台						[進捗]		
	航空障害灯						[進捗]		
	電源局舎						[進捗]		
	電源設備						[進捗]		
	幹線ダクト						[進捗]		
(直 轄)									
無線工事						VOR/DME ローカライザー・グライドパス			
建築工事						[進捗]			
気象工事						[進捗]			
ターミナルビル工事						[進捗]			

写真一 1 空港建設予定地



(昭和62年7月撮影)

写真一 2

空港建設現場



(平成 2 年11月撮影)

平成 3 年度以降は、用地造成工事を完了させ、滑走路、誘導路、エプロンの舗装を行ない、照明施設、無線施設などを平成 4 年の 9 月まで完成させ、フライトチェック（テスト飛行）を実施する予定である。

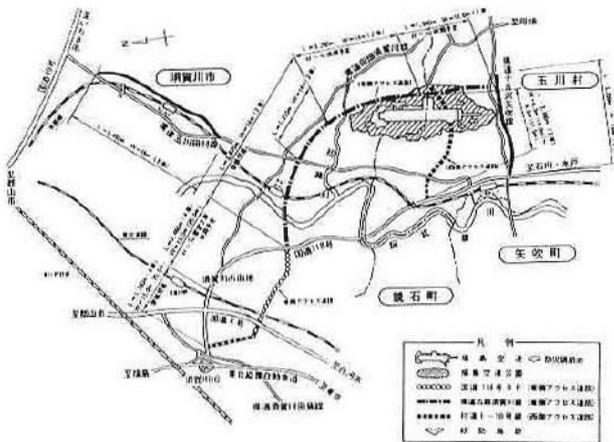
一方、ターミナルビルについては、平成 2 年 4 月に福島空港ビル株式会社（第 3 セクター方式）も発足し、資本金 10 億円として、ビル一層半方式のタイプで、旅客ビル面積約 7,500㎡、貨物ビル面積約 800㎡の規模で、「便利な」「親しめる」「時代にマッチした」「福島らしい」の 4 つのテーマを反映することを目標に、空港ターミナルビルの設計に着手し、平成 3 年度には建設に入る予定である。

6. 福島空港関連事業の概要

1) アクセス道路の概要

福島空港へのアクセス道路は、空港への定時性、利便性を確保するため、東北縦貫自動車道須賀川 I・C からターミナルに通じる東側アクセス道路（県道古殿・須賀川線）L=13.3km、W=25.0~14.0m、及び国道 118 号線からターミナルに通じる西側アクセス道路（村道 1-10 号線）L=3.3km、W=14.0~11.5m を整備を推進する。(図一 2 参照)

図一 2 アクセス道路



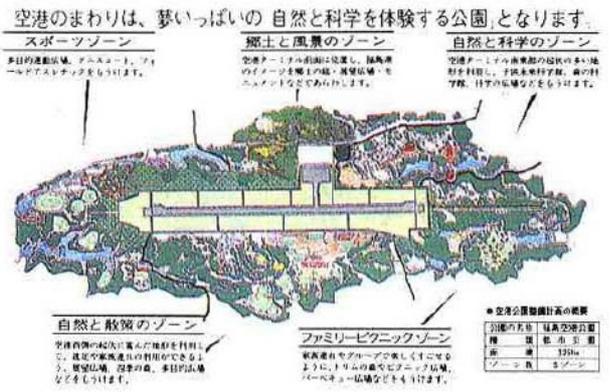
2) 福島空港公園の概要

福島空港公園は、本県を中心に位置する郡山市、須賀川市などの地方生活圏における公園として位置づけし、地元住民はもとより、広く県民が利用できる公園として、福島空港の周りを、夢いっぱい「自然と科学を体験する公園」として、公園面積 A=325 ha、公園全体を 5 つのゾーンに分割し、各ゾーンごとに、魅力ある施設の整備を図る。(図一 3 参照)

その内容は表一 4 のとおりである。

そのうち、郷土と風景のゾーンについては空港の開港と合せて、一部供用開始を図る予定である。

図一 3 空港公園の計画



表一 4 空港公園一覧

ゾーン	中心施設	主な施設	ゾーンの整備方針	整備目的
自然と科学	子供科学未来館 森の科学館	コミュニティーホール サイクリングセンター 科学の広場、中央広場 多目的イベント広場 飛いの丘、水辺広場	本公園の中心施設であり、子供から大人までが十分楽しめる魅力あるゾーンとする。	●自然を知り、季節を体験する。 ●子供に夢と未来を促す。
郷土と風景	郷土の館	見晴らし台 アロマセラピー コミュニティ 風船広場 おまつり広場	福島県の空の玄関口として、県特有の郷土景観を印象づけるためのゾーン	●全国に誇り得る福島の名所をつくる。
ファミリーピクニック	バーベキュー広	子供の野 スーパースライダー トリムの森	自然の中で遊び、憩いのびのびとした空間を持つゾーン	●家族連れがゆったり憩う場とする。
自然と教養	咲草広場	花畑 大芝生広場 見晴らしの丘 四季の森 多目的広場	四季折々に様々なレクリエーションを可能とする。変化に富んだ自然を有するゾーン	●地域を象徴する豊かな森をつくる。 ●自然教育、自然体験が味わえる場とする。
スポーツ	多目的運動広場	林間テニスコート フィールドアスレチック、BMX コース スライダーポール	緑に囲まれた快適な環境でスポーツを楽しむゾーン	●家族連れ ●市町村、学校等のサークルグループ

7. おわりに

福島空港は、福島全県民が待望している一大プロジェクトであり、工事面においても、県内では過去に例のない大規模土工事である。

地元の積極的な協力のもと、用地買収も円滑に進み、事業も計画どおり、順調に進捗している。

今後も、工事の安全管理に細心の注意を払いながら、平成 5 年 3 月の開港に向けて、努力していく考えである。

最後になりましたが、母校、校友会のますますのご発展とご活躍をお祈り申し上げます。

(土木工学科第 13 回卒業)

# 新入社員＝無我夢中

若葉マーク  
がんばり記

(株)東芝 青梅工場

渡辺 美智子



私が4月に入社してから、はやくも5ヵ月がたってしまいました。あつという間の5ヵ月でしたが振り返ってみるといろいろな事がありました。

まず4月の新入社員導入研修では、2,000人近い新人がA～Dの4グループに分かれ、そのグループの中でも1～10までのグループに分かれて基礎実務と呼ばれるビジネスマナーについての講義とロールプレイングや東芝の経営理念についての理解、またOA実践や野外研修など行われました。野外研修では、私達のグループは秩父へ行きました。他に大島や観音崎に行ったグループもありました。私達が行った秩父は、夏のキャンプ場なのでロジックも風通しが良く、毛布もうすいものが2枚あるだけ、おまけに4月の中旬だというのに雪まで降ってしまいとても寒い野外研修でした。しかし、この野外研修で社会人としての団体生活の在り方というものを学びました。

この4月の導入研修では、配属先も異なる人達が1つのグループで交流を深め、また新人が全員でなにかをすることにより会社の横のつながりというものがつくられたように思いました。

5月になって事業本部ごとの配属が決定しました。私は情制本(つまり情報処理・制御システム事業本部)と呼ばれるところに配属となりました。ここには、本社と府中工場、青梅工場が属しています。私は青梅工場に希望していたので、ほぼ希望通りでした。中には、第3希望にも入っていない所に配属になった人もいて、配属示達の日、運命の分かれ道といってよいでしょう。私は、とりあえず無難にクリアできたわけです。

事業本部の配属が決まり、また1ヵ月間研修がありました。今度は事業本部の活動や目標について1ヵ月間みっちり学びました。5月の最終日は、待ちに待った本配属の日。各工場に正式に配属が決まるのです。私は、リエゾンといって工場への配属予約があったので、一応は安心していたのですが、それでもドキドキして本部長の配属示達を聞いていました。私は予定通り青梅工場に配属となり、部署はパソコンソフトウェア設計部のパソコンソフトウェア第3担当でした。ここは略称で「PCS」(PS3)と呼ばれています。

6月に入って青梅工場へ行くことになりました。やっと研修が終わったと思っていたのに、今度は青梅工場内で1ヵ月間現場実習が待っていたのです。現場は

1日中立ったままで仕事をするので1ヵ月間は足が棒のようでした。私はフロッピーディスクに商品となるものをコピーしてそれにラベルを貼る仕事をしていました。実際、コピーしたりラベルを貼るのは機械が自動でしてくれるので、私はそれをケースにつめる作業をしていた、というのが正確かもしれません。

パートの方々はとてもやさしくしてくれたので、とても楽しい実習でした。また、自分がこれからどんな製品をつくり、それがどのようにしてできあがるのかや、実際の製品をつくる現場の声を聞くことができたのでとても勉強になりました。1ヵ月の現場実習を終えて、自分の課である(PS3)に戻ると課の方々は大歓迎してくれました。PS3の人達はとても明るい人ばかりなので、私は安心しました。

新人には、メンターと呼ばれる4、5年上の先輩が教育役として1人つきます。私もメンターのもとでC言語や、これからの仕事についての勉強をしています。配属されて、すぐに仕事にはいっている人も多い中で私は、いまだに勉強勉強の毎日です。でも毎日楽しく会社に行っています。

現在は青梅工場の独自の教育の一貫として、神田で営業実習の最中です。ユーザーのところにおいてアンケートをとったりしていますが、なかなかうまく話せないで、ずいぶん苦勞しています。

私達新人の教育は、仕事をしながらも、あと3年間は義務として続きます。またその後も自己啓発として続きます。皆さんは会社に入れば勉強をしなくてすむと考えているかもしれませんが、実は会社に入ってからが本当の勉強だと私は思います。これからもますます勉強して頑張っていきたいと思います。皆さんも頑張ってください。(電気工学科第38回卒)

[17ページより続く]

## 土木3回卒同級会

酒井 曉

我々の同級生には、校友会の会長及び会長経験者が3名、支部長が2名とリーダーが多く、色々な面において便利であり、近況などもよく知らせてくれて、大変助かっております。

10年程前にも同級会を開きましたが、今回、平成2年10月20日、磐梯熱海温泉で、4人の同伴者を含めて15名の出席を得て開きました。卒業以来初めての方もいて、年輪の大きさを感じさせられ、楽しい一夜を過ごしました。

(土木工学科第3回卒、いわき市役所)

## ヨーロッパ—その折々の思い出

建築学科専任講師 渡 澤 正 典

平成元年10月、第19回欧州研修旅行団（学生72名、引率教職員4名）の引率依頼の電話が入った。突然の事でもあり、2つの不安があったため即答は控えた。先ずは言葉である。自分の意志は伝えられるとしても、相手の言葉を理解するとなるとどうか。次は、飛行機への不信感である。高い上空でのあの頼りなさは、私をまさに足が地に着かない状態へと誘い込む。そんなことで躊躇していたのだが、またとないチャンスでもあるので、思いきってお受けしたのだった。短時間の旅行であったが、ここにその折々の思い出を記してみる。

平成2年2月21日、4万キロの旅は、22時間の飛行機旅行から始まった。機内では瞬時も心が落ち着くことはなかった。そんな折、「片足を棺桶に突っ込んで居るようなものだから、きれいなスチュワーデスさんでも居なければ、割に合わない。」と呟いた学生がいた。同感であった。

最初の訪問国はギリシャである。アクロポリスの丘の西に向かって立つプロプライヤが、私たちを迎えてくれた。城門を入ると右手奥にバルテノン神殿がそびえる。絶妙なバランスの上に建つ白亜の列柱に、言葉を失う。日本では縄目の文様を刻んでいた頃、この国ではすでに建築技術面で完成の域に達し、芸術が開花していたのである。それを目の当たりにする時、私はただ驚嘆するのみであった。しかし、これら人類の宝は、かつてトルコ戦争でそのほとんどが破壊され、今また大気中の有毒ガスにその白い肌が侵されつつある。私達は、これらの宝を無事に次世代へ引きわたせるのであろうか。

ローマの街は、セピア色を基調と<sup>観</sup>る石造の街並みが今も印象に残る。おそらくは何世紀も変わることなく今日まで続いてきたのであろう。重厚な石の建物は木の建物に馴染んだ私を威圧する。そして、無機質であるにも拘らず、その素肌は温かみを醸し出していた。

キリスト教の三大聖地の一つ、サン・ピエトロ寺院のサンクチュアリでは、人々が祈りを捧げていた。司祭の説教と賛美歌が堂内に響く。その荘厳さに、異教徒の私も命の根源が揺さぶられる思いがした。それは、パイプオルガンの音色のせいばかりではなく、音響効果を巧みに増幅させる建物の構造がそう感じさせるのであろう。

アムステルダムでは世界でも名だたる「名所」の視察に行った。名誉のために敢えて言うが、あくまでも視察の為である。それを「名誉」と考えるか「不名誉」と考えるかは任せるとして、そこは妖しい色のイルミネーションが輝き、人間の性が赤裸々なまでに表現されていた。帰路に向かう折しも、遠くの教会から鐘の音が聞こえてきた。清らかなその音は、人間の持つ原

罪を、神がその贖罪としてあがなってくれているかのように聞こえた。

ロンドンで見かけた建築構法に興味深いものがあった。それは、主体が鉄骨の建築物であった。鉄骨の周囲はモルタルで被覆され、更にそのうえに20×40×15cm程のレンガが組積されていた。日本では、レンガの化粧タイルを下地モルタルで貼るに止めるであろうが、さすが地震の少ない堅実なお国の構法は違うなど、妙なところで感心させられたのであった。

ところで出発前の心配に言葉の問題があった。それなりに勉強はしたが、実践で通用する筈もなかった。ある空港での入国審査では、学生達は審査官から質問される恩恵に与っていた。しかし、私の場合は、無言のうちに入国が許可された。申告書類に大層な肩書が書いてあったからかもしれない。しかし、恐らくは、質問しても時間の浪費と審査官が直感したからに違いない。それにしても、一言でいいから質問して欲しかったと、実害のない今になって悔しくてならない。もう一度は、オランダでの工場見学の時のことである。入口を入るとすぐに女性の声が聞こえた。初めは、緊張していて聞き取れなかった。次は、はっきりと聞き取れた。それは“Do you speak Japanese?”と言っていたのである。返答ができなかった。日本人の私にとって、余りにも当然すぎる質問だったので。それと美しい受付を前にして、すっかり上がってしまったのである。それ以後は、すっかりカンパゼーションに自信を失い、すべて“……、please.”で押し通した。

7ヵ国を駆け足で巡る旅で、各国の文化を深く掘り下げて見るまでは至らなかった。しかし、いずれの国も遠い昔の面影を、大切にそこかしこに留め残していた。国情の違いのなか文化の違いなのか、ちょっと行かないと街の景観がすっかり様変わりする、どこかの国とはまるで違う。眩暈に似たカルチャーショックを感じながら、3月14日北ウィングで帰国の途に着いたのであった。

(本会理事 建築学科第14回卒)

[写真:ロンドンにて、筆者左端]



## ベルリンを旅して

日本大学東北高等学校教諭 鈴木 守

私はこの度、日本大学より平成2年度の海外派遣研究員として出張を命ぜられ、日本大学の教職員の方々と共に7月19日より8月11日までの24日間ヨーロッパ各地を回って来ました。国内旅行もさ程していない私にとって飛行機に乗ることも初めての経験でした。しかし予想以上に快適な旅をする事が出来、無事帰って来ました。その中で特に感銘を受けたベルリンの旅について感想を述べてみたいと思います。

ベルリンは第2次大戦後、ソ連・アメリカ・イギリス・フランスの4カ国によって統制され、そして東西のベルリンへ分離して行きました。その中で西ベルリンは周囲160kmに及ぶ壁によって完全に東ドイツの中に島のように存在してしまいました。その壁が89年11月に28年振りに取り壊され、ベルリンはもとよりその後東西ドイツの通貨統合、そして東西ドイツ統一へと移行していく時期にベルリンを訪れることが出来ました。ベルリンには8月5日、西ドイツのフランクフルト国際空港よりパンアメリカン航空機に乗り西ベルリンのテーゲル空港へ到着しました。この空港へは米英仏の3カ国の航空機しか離発着が出来ないとのことでした。ドイツの中でさえドイツの航空機が離発着出来ない現状でした。当然のことながら空港でのチェックは他の空港より厳重でした。テーゲル空港より戻るときにはトランクの中身までチェックを受けました。ここまで厳しいチェックを受けたのは旅行中初めてであり、ここだけでしたが、少々緊張しました。

私たちはベルリンに着くとすぐに東西ベルリンを隔てていた「ベルリンの壁」の跡を見学しました。かつての首都ベルリンの象徴であった「ブランデンブルク門」は修理のため姿を完全に見ることは出来ませんでした。しかし東西の基点として門を隔てた両側は対称的な建物を見ることが出来ました。西側はモダンな建物が目につき、東側には古めかしい建物が多く見られました。住宅街などを見ますとその差は一段とハッキリしていて経済力の差をまざまざと見せ付けられました。かつては許されなかった東側の観光も観光バスから降りて直接見学することが出来ました。「国立オペラ劇場」や「フンボルト大学」、「ベンガモン博物館」そして1時間ごとに衛兵の交替が行われていた「ノイエ・バツェ」などを見て回りました。「ノイエ・バツェ」での衛兵の交替はこの後間もなく廃止されましたので、貴重なものを見学することが出来ました。西側の街並みを見ますと所々に兵隊さんを見かけ姿、形が変っていました。というのは米英仏の管理下にあり区域によってそれぞれの国が管理していたからでした。しかし、どこも自由に行き来でき、見て回ることが出来ました。

2泊3日の西ベルリン滞在中、ベルリン自由大学において学長のレクチャーを受ける事が出来ました。レクチャーの内容は「ドイツ教育のあり方とその問題」と「ドイツ統一」の2つのテーマを基に約2時間程レクチャーを受けました。その中でベルリン自由大学の由業とその変遷そして大学のモットーとする自由のあり方、特に自由というのは一つには「言論の自由」もう一つは「後ろに国家のつかない自由」だということを強調され



ていました。ベルリン自由大学は日本大学と協定を結び共に友好的な意味で行き来しているとの事でした。又変動する中での訪問に対しても感心していました。誰もが関心のある時期に東西の変化と共にヨーロッパ全体が変化しようとしている時期でもありました。私たちが訪れた2ヵ月後にドイツは統一されました。このことは言うまでもありませんが、ベルリンにおいては「ベルリンの壁」が壊されてから初めてお互いに自由に行き来し、分った事が多々あったとのことでした。それは東のフンボルト大学のことでした。西とは考え方が全然違って理解することが出来なかった程であったとのことです。ある程度予想はしていたが、大学の生き方やあり方などが想像以上に違っていた様でした。そして統一後の大学のあり方を大変心配していました。しかし、現在の望みとしては1日も早いドイツ統一を望んでいるとの事でした。また、学長は願いとしてはドイツ統一により教育方針がデモクラシーに基き一つになることであるとも言っていました。

旅の初めに訪ずれたイギリスでは三菱銀行ロンドン支店次長より「イギリスの現状」と「EC統合」についてのレクチャーを受けていたので、EC諸国の動きについての予備知識を得て旅をする事が出来ました。ベルリンにおいての現状と併せて何となくヨーロッパ全体を知ることが出来ました事は私にとって最高の収穫であった事は言うまでもありません。これらの体験を通して今後の教育活動に反映したいと考えています。

(本会評議員 電気工学科第16回卒)

[写真:ベルリン自由大学にて]

### ◇工学部長に國分欽智教授

任期満了に伴う、次期工学部長選挙が平成2年5月31日に行なわれ、電気工学科の國分欽智（こくぶんきんち）教授が選出されました。

國分教授は、福島県出身で64歳。工学部の前身の専門部工科電気工学科の第1回生（昭和25年3月卒業）。その後、第二工学部に編入学されて第1回生（昭和28年3月卒業）として卒業されました。付属の東北高校から昭和44年4月に工学部に移られ、電気工学科の教授で工学博士として現在に至っています。

就任は平成2年7月17日で、任期は3か年であり、第7代の工学部長になります。

### ◇校友の母校での教員

平成2年4月1日付で昇格されました。

教授 小野沢元久（機13回卒）工博

助教授 佐藤 光正（機9回卒）

橋本 耕吉（機11回卒）

高橋 迪夫（土16回卒）

野田 吉弘（化19回卒）理博

専任講師 土方 吉雄（建23回卒）

### ◇理事・評議員に國分学部長ら

学校法人日本大学の役員の改選が平成2年9月までに行なわれ、工学部関係では次の方が選出されて就任されました。任期は平成2年9月10日から5年9月9日まで。

理事（30名）國分欽智（工学部長）

評議員（116名）國分欽智

蓬田和夫（教授）＝教員から選出

菊地四郎（事務局長）＝職員から選出

本郷忠敬（前工学部長）＝学識経験者

### ◇日本大学総長に木下茂徳教授

任期満了に伴う、次期総長選挙が、平成2年6月21日に行なわれ、木下茂徳（きのしたしげのり）教授が選出されました。

就任は平成2年9月1日からで、任期は3か年となっており、第8代の総長である。

木下茂徳教授は香川県生れで66歳。工学博士、日本大学理工学部長。

### ◇日本大学大学院工学研究科だより

①平成元年度、次の2名に工学博士の学位を授与。

藤田龍之：マイクロ波及び超音波を利用した土の物理試験の能率化に関する研究 H.2.3.12

佐藤康彦：表層部の改質によるコンクリート及びモルタルの耐久性の改善 H.2.3.25

藤田君は論文博士の25号、佐藤君は課程博士の5号である。藤田君は土木14回卒で現在は工学部の助教授、佐藤君は建築33回卒で現在は昭和シェル石油㈱中央研究所に勤務されています。

### ②平成元年度大学院設備拡充費

(i)「超微粒子凝縮系の変調構造と電子材料」統馨・林精一・永嶋誠一の諸先生。全自動型X線回折装置一式で経費は約1,400万円。

(ii)「地盤及び建築構造物の振動性状およびその動的相互作用に関する研究」池田昭男・黒田浩司・倉田光春・千葉正裕の諸先生。微振動測定装置一式で経費は約3,500万円。

### ◇課外活動各部の活躍（平成2年1月～12月）

（学生課調べ）

#### ○日本大学体育大会（%～%）

▽サッカー部

優勝

▽柔道部

2位

#### ○第41回東北地区大学総合体育大会（%～%）（於秋田市）

▽柔道部 個人 田邊潔志

3位

#### ○全国大会出場

▽柔道部

第31回全日本理工科学生柔道優勝大会 優勝  
（%）（於講道館）

国民体育大会（於福岡市）

個人 -86kg 田邊潔志

▽空手道部

第30回空手道糸東会全国選手権大会（%）（於武道館）

▽ボディビル部

第17回全日本パワーリフティング大会

松長直樹 67.5kg級

ベスト8

（%）（於名古屋名城大）

▽日本拳法部

第3回全国大学選抜選手権大会

（%）（宮城県スポーツセンター）

#### ○定期発表会

▽演劇部

第4回春季公演（%）（於日大工学部体育館）

第27回定期公演（%）（於郡山市民文化センター）

▽吹奏楽部

東北学生吹奏楽連盟第5回合同演奏会

（%、%）（於宮城教育大学）

日本大学吹奏楽研究会第30回定期演奏会

（%）（於東京厚生年金会館）

▽機械研究会

昭和シェル石油カーグラフィックマイレッジマラソン（%～%）（於鈴鹿サーキット）

▽電気研究会

第11回全市全郡コンテスト（%～%）（於日大工学部）

▽写真部

第34回写真展

（%～%）（於やまのいカルチャーセンター）

# クラス会・同窓会だより

## 専門部工科電気科1期2期同級会 國分欽智氏(1期生)の工学部長就任を祝して 幹事 関根 昭一

工学部の前身である日本大学専門部工科電気科の1回生・2回生の同級会を過日平成2年11月17日熱海温泉「ホテル華の湯」で開催致しました。特に1回生にとっては卒業後40周年の記念すべき年でもあり、更に同級生の國分欽智氏が母校である工学部の学部長就任という大変名誉な事の祝賀も兼ねての同級会となりました。

当日は恩師本間磐先生は新居地東京より、松本喜光先生は千葉市より遠路御臨席を賜り参加者は23名となりました。6時開会し、恩師二方のお話と新学部長の話をいただき、学生時代の思い出話、40年間のそれぞれの分野での苦労や活躍の話に花が咲き、1次会の閉会は10時近くであった。さらに各部屋での2次会も盛会と聞きました。戦後の昭和22年に入学し3年間の学生生活であったが、我々は日本大学工学部の卒業生として、またエンジニアとして誇りと自信を持って戦後の日本の復興に微力ながら頑張ってきたことと思います。

来春をもって1期・2期生の大半はサラリーマンとしての第一線の身を退くこととなります。諸兄の40年間の御苦勞に対し、心からの敬意を表します。最後になります。國分欽智先生の新学部長としての御活躍を期待し、2年後の再会を約束し同級会の報告と致します。(本会参事 専門部第1回卒、工学部第2回卒)

[写真] 前列中央 國分欽智工学部長、左 恩師本間磐先生、右 恩師松本喜光先生



## 機械6回卒ゴルフ大会

小池 武志

機械6回卒のあかしやファイトゴルフ大会は、その第9回を平成2年3月15日、茨城県霞ヶ浦に程近い、玉造G.C.(地主増山敬芝氏)で開催しました。

会員15名に恩師の吉沢周蔵先生も参加していただきました。前日の雨も上り、心地よい早春の一日、和気あいあいの中にも、1.5ランドの真剣なプレーを楽しみ

ました。

優勝杯は前回優勝の薄井義人(富士重工)氏から北島三男(イーグル工業)氏に移り、準優勝は高山良一(日本ヴィクトリック)氏でした。

(機械工学科第6回卒、三面(みおもて)印刷㈱)



## 機械工学科第11回卒同級会

田中 靖洋

平成2年10月20日(日)「はぐるま会」(昭和37年度機械工学科卒業生)の同窓会が郡山市内で盛大に開かれました。

毎年開いていますが、今回は50才を迎えた節目となりました。当日の日中は工学部に於て学部内見学をいたしました。我々の学んだ当時の面影はほとんどなく、新しい校舎、実験設備の充実と学校周辺の変ほうには全員おどろくと同時に卒業生として誇りを感じました。夕方よりは懇親会が開かれ、外木有光先生を初めとし一色忠夫先生、吉沢周蔵先生、柳沼福夫先生ならびに工学部校友会の橋本寛事務局長のご出席をいただきました。同窓生も北海道から九州まで全国各地より29名出席し、卒業以来初めて郡山にきた者、あるいは、初めてはぐるま会に出席した者も多く夜遅くまで懇親をはかりました。荒池の工学部研修会館に泊り深夜まで時間を忘れ、話しに花が咲きました。また翌日はゴルフコンペを開き、ほんとに有意義な2日間を満喫いたしました。(機械工学科第11回卒、三機工業㈱)



## 「少し集まりが悪いのおーなしてか」

山口アカシア会会長 山田 啓介

今年の山口アカシア会の総会は、平成2年9月15日下松市の沖に浮ぶ笠戸島で開催した。会場となる国民宿舎「大城」は海に迫り出していて周囲270度の展望は実に素晴らしい。

当番幹事役の県庁職員の浜中義汎氏(34年度卒)と、設計事務所を開設している藤崎克己氏(39年度卒)の労をねぎらい、宴会に入る。

いつもの会と同じで時間が過ぎて行くのに歌など歌う人は居ない。いくつものグループは解けてはもつれ、話しがはずむ。今回、会則の一部を変更し、「日本大学工学部建築科卒業生をもって組織する」とあるのを建築科を取り去ってしまった。この席には土木科卒の綿貫一彰氏(46年度卒)も、初参加ながらいろんなグループの中に座り込み話し込んでいた。

「来年は四、五人の土木科卒を参加させて下さい」と、嬉しいことを言う。

誰か電気科や、機械科卒の友達は居ないのかと話しは広がって行く。やっと設立時の目的が達成される日の近づくのが感じられて、私は嬉しくなった。

初めて出席した池田誠氏(58年度卒)に、郡山から連れて帰る様な女性は居なかったのかと聞くと、会津の女性が居たが、祖父の「長州か」の一言で許してくれなかったと言う。

水面を染めていた夕焼色も、少しづつ深く沈んで行く。彼もこの移り行く光の不思議な変化につよく惹きつけられて話したのだろう。

山口アカシア会は新しい第一歩を踏み出します。もし会報紙を読まれた同志の参加することを願っています。母校のますますの発展を願いながら。

(建築学科第6回卒  
樫建築設計事務所)



## 茨城北桜建築会総会について

幹事 池田 稔郎、橋本 正己、坂本 勝幸

茨城北桜建築会は、昭和61年10月18日茨城県内在住の卒業生多数の参加を得て設立総会を水戸で開催し、

正式に発足しました。

鈴木重男会長(7回卒)、山田博通副会長(10回卒)以下茨城県内5ブロック(県北、県央、県西、県南、鹿行の各地区)に地区幹事を置き、現在会員数は105名になっております。会則をもとに各会員の親睦を主とし、情報交換等を行っています。

会はまだ、やっと軌道に乗ってきたばかりですが、毎年1回各地区持ち廻りで一泊総会を行っています。平成2年度は、鹿行地区担当にて茨城の東南端神栖町で多数の参加を得て開催することが出来ました。

10月27日、pm 6時より年次総会を開催し、その後、工学部の黒田浩司助教授の来賓も加えて親睦の宴に入り先輩、後輩、酒盃をかわしながら楽しい一時を過しました。

今後は、いかにより多くの会員を参加させることができるか、何か事業計画を行いたい等が課題であろうかと思えます。茨城北桜建築会が、これからますます発展するよう、努力するつもりです。

茨城北桜建築会鹿行地区幹事 池田稔郎(15回卒)、橋本正己(19回卒)、坂本勝幸(22回卒)



## 北心寮北心会総会

中島 康之

今年度の総会は平成2年5月26日(日)、東京上野で開催しました。工学部校友会事務局長の橋本寛氏(建築)を初め、工学部校友会東京支部長の古村和夫氏、南は四国高松より市川幸弘氏(大成建設)など、特に36年度卒業生が多く集まりました。本年度連絡のあった方で、建築28年度卒の山本恒雄氏が学校法人山本学園理事長に、土木29年度卒の根本亮氏が千葉県企業庁庁長に、土木30年度卒の久高将榮氏が沖縄県土地開発公社理事長に、土木31年度卒の佐藤謙内氏が福島市助役に等々、皆がんばっています。

4年間北心寮で寮生活をした者ばかりではなく、寮に関係のあった方にも会員になっていただいで北心会を発展させたいと思っています。事務局に連絡いただければ総会の案内をお送り致します。そして総会に出席して北心寮歌を高らかに合唱しましょう。

(会長 石島秀雄、事務局 中島康之とともに伊藤喜三郎建築研究所)

# 校 友 短 信

## 土木工学科

◆久高 将栄 (4回卒、沖縄県土地開発公社理事長)  
沖縄県土木建築部長を退任し、引続き、沖縄県技術センター理事長を経て、現在土地開発公社におられます。校友の皆様には長らくご無沙汰致しております。ご健勝を心からお祈りします。

(H. 2. 10. 3受)

◆阿部 弘 (10回卒、福島県建設技術研究所 試験調査課 専門技術員)

新田亮教授の訃報(平成2年1月28日にご逝去)を聞き残念でなりません。先生は退職されてからも時折当所においでになられて、大学生活のことや県内外在住の先輩のことなど熱心に話されており、温厚な先生の姿が思い出されてきます。先生のご冥福をお祈り致します。

(H. 2. 2. 23受)

◆川口 博行 (18回卒、清水建設(株)土木本部)

訪ねる会を楽しみにしていたのですが、仕事の都合がつかずに残念ですが欠席させていただきます。盛会を祈ります。

(H. 2. 9. 29受)

◆豊島 健 (18回卒、大成建設(株)海外事業部)

(H. 2. 3. 20受)

◆平野 尊治 (18回卒、岡山県職員)

卒業してはや20年、年月の流れはなんと早いことかと感心しております。岡山県の中堅技師として頑張っています。訪ねる会には欠席ですが同級生のご活躍をお祈りしております。

(H. 2. 10. 1受)

## 建築学科

◆岡村 明 (10回卒)

日魯漁業株から(株)農林協同倉庫へ出向を命ぜられ、総務部長として着任いたしました。

(H. 1. 10. 26受)

◆浦 憲親 (18回卒、金沢工業大学 建築学科)

訪ねる会に欠席させていただきます。学生時代は素朴でよかったと思っています。もっとゆっくりと動いてもよいのでは?もっと地道に。などと最近思っています。

(H. 2. 9. 29受)

◆國分 次男 (18回卒)

現在、設備設計事務所(株)イズミ設計事務所を営んでおります。なお、福島県設備設計事務所協会の会長も

(校友会の事務局へのお便りや、連絡などから無断で掲載いたしました。ご了承ください。)

仰せつっております。

(H. 2. 9. 25受)

◆高井 豊 (20回卒、清水建設(株)九州支店九電玄海工事事務所)

佐賀県東松浦郡玄海町の当地に転動して早や2年が過ぎました。現在原子力発電所の3号機を建設中ですが、4号機施工までには在住の予定ですので、あと5年ぐらいいはいるつもりです。

(H. 2. 8. 4受)

◆橋本 雅史 (34回卒)

工学部(第二工学部・専門部工科郡山)の卒業生のうち、和歌山県在住者及び出身者のOB会を考えています。微力ではありますが努力したいと思っていますので、皆様のご協力をお願いします。(H. 2. 6. 6受)

(建築学科第34回卒、(株)雑賀設計勤務)

## 機械工学科

◆村田 繁雄 (1回卒、北海道電工(株)代表取締役社長)

先日は突然お伺いいたし、工学部資料展示室の閲覧を案内いただき、また校友会の資料もお分けいただき有難うございました。母校の発展ぶり喜ばしい限りです。國分学部長とも暫し懇談の機会も得、工学部出身の初の学部長、同期の中で抜群の俊才、なるべくしてなったと感じております。校友各位も協力しバックアップしていくべきと考えています。工学部の益々の発展を祈念致しております。

(H. 2. 11. 20受)

◆阿部 寛治 (9回卒、東北電力(株))

このたび、火力部から新仙台火力発電所勤務になりました。新仙台火力発電所は60年4月以来、長期計画停止中でありました1号機(35万KW)が来年7月の運転再開に向けて点検整備に着手いたしましたし、2号機(60万KW)の安定運転ともども、お客様に確実に電気をお届けできるよう頑張っているところです。

(H. 1. 8. 10受)

◆奈良 俊勝 (9回卒、三菱重工業(株))

三菱重工業(株)技術本部に転任の上、財団法人エンジニアリング振興協会に派遣され着任しました。今後は協会の「地下開発利用研究センター」で、大深度地下の技術開発の任務に携わる予定です。

(H. 1. 8. 14受)

◆酒井 勝雄 (11回卒、福島県福島工業試験場場長)  
福島県の工業振興について、技術面でいろいろやらせていただいております。

平成元年度は工業統計速報によりますと、製造品出荷額が初めて4兆円をオーバーし、付加価値も向上しました。

今後とも、よろしくご指導くださいますようお願いいたします。

(H. 2. 11. 21受)

◆富樫 宏明 (14回卒、三井不動産建設㈱企画開発本部開発営業部)

7年振りに東京に戻りました。技術職から営業職に移りまして、7年めを迎えています。郡山へは昭和47年に行ったきりですが、大部辺りは変わったことでしょうね。気になります。

(H. 2. 5. 12受)

◆遠藤富士男 (18回卒)

母校を訪ねる会にお招きありがとうございます。現在、須賀川市で歯科医院を開業しております。会には出席できませんが、皆様のご活躍を祈っております。

(H. 2. 9. 12受)

◆二木 好文 (18回卒、KONICA BUSINESS MACHINES MANUFACTURING GmbH.)

大きく状況が変化している西ドイツに赴任後、はや3年が過ぎました。元気にやっております。

(H. 2. 3. 30受)

◆山田 芳文 (20回卒、東芝プラント建設㈱)

東芝プラント建設㈱に勤務していますが、休職して全東芝労働組合連合会事務局長に転任しています。

(H. 1. 8. 10受)

◆百瀬 輝正 (25回卒)

ペンション

# しるふれい

百瀬 輝正

長野県南安曇郡安曇村さわんど4156-3  
〒390-1526 (のりくら高原局) 026393-2265

(H. 2. 6. 22受)

◆柳田 茂生 (25回卒、レオン自動機㈱技術サービス部)

(H. 2. 3. 17受)

◆花村 英俊 (30回卒、長野県東筑摩郡筑北中学校)

現在3校目の中学校に勤務しております。2学年の学担任で数学を教えています。全校生徒200名余の中学校で素直な生徒が多く、やりやすい面もありますが、気力の点でもう一歩のようです。日大工学部の益々の発

## 噂のページ

◆原 忠勝君 (土木15回卒)

平成元年11月27日、「鉄筋コンクリートコーベルのせん断耐力に関する研究」で、日本大学(理工学研究科)から工学博士の学位が授与されました。昭和44年4月から工学部に勤務、現在は助教授として活躍されています。

◆渡邊直隆君 (電気17回卒)

平成2年7月9日、「皮膚インピーダンスの緩和点での評価法に関する研究」で、日本大学(医学研究科)から医学博士の学位が授与されました。昭和50年4月から工学部に勤務、現在は専任講師として活躍されています。

展をお祈りします。

(H. 2. 7. 4受)

## 電気工学科

◆中野 栄一 (4回卒)

昭和62年12月に、㈱気仙沼造船の代表取締役社長になり、マグロ・サンマ・カツオ一本釣などの漁船の建造受注に忙しい毎日です。

(H. 2. 4. 2受)

◆鳥越 政信 (11回卒、八洲電機㈱電子営業本部副部長)

電気工学科の第11回卒業生は、現在3年に1回の割で同級会を開いています。平成2年は郡山で開催し、本郷・本間・橋本・渡辺先生に出席していただき、盛会でした。

(H. 2. 5. 31受)

◆砂田 崇 (17回卒、吉田YKKエンジニア㈱)

母校を訪ねる会には、工場の増築期にあたり、出席できないのが残念です。母校の発展も心から喜んでおり、一度皆さんの尊顔を接することを祈念しています。

(H. 1. 9. 9受)

◆山田 稔 (18回卒、東洋電機通信工業㈱営業開発本部課長)

後輩の新入社員を熱望しています。普通の学生で良いですから、希望者は名乗って下さい。

(H. 2. 3. 23受)

## 工業化学科

◆深沢 康俊 (18回卒、日本ゼオン㈱)

母校を訪ねる会には都合がつかず、失礼させていただきます。研究から始めた新事業が本工場までに成長し、張り切っております。皆様によろしく。

(H. 2. 9. 25受)

## 平成3年度通常総会通知

校友の皆さまには、各職域において益々御健斗のこととお慶び申し上げます。

さて本会会則第28条により、日本大学工学部校友会平成3年度通常総会を下記により開催いたしますので、先輩、後輩お誘いあわせの上多数ご出席くださるようご案内申し上げます。

### 記

1. 日時 平成3年4月20日(土) 午後2時
2. 場所 日本大学郡山研修会館(郡山市愛宕町2-22) ☎0249-23-4193
3. 議題 平成2年度会務及び決算報告、平成3年度事業計画及び予算(案)審議、その他
4. その他
  - (1) 諸般の事情により、本号に掲載の上記案内によって総会通知といたしますのでご了承がいます。
  - (2) 総会終了後、引続き同所において恩師を迎え懇親会を予定しております。
  - (3) 研修会館宿泊希望の方は5日前までに母校庶務課☎0249-44-1300代に申し込んでください。

## 各支部の総会

### 九州支部総会

平成2年7月13日(金)  
福岡市 セントラルホテル  
参加会員 約50名  
本部から 村田吉晴理事

### 四国支部総会

平成2年7月14日(土)  
高松市 わたや旅館  
参加会員 20名  
本部から 橋本寛事務局長・森谷信次評議員  
来 賓 木村喜代治教授他5名

### 北海道支部総会

平成2年7月16日(月)  
札幌市 アートプラザホテル  
参加会員 約70名  
本部から 武田仁幸会長  
来 賓 後藤尚教授他7名

### 東海支部総会

平成2年7月21日(土)  
名古屋市 ホテルキャッスルプラザ  
参加会員 約50名  
本部から 半沢忠副会長

[写真は四国支部総会]



### 北海道支部

支 部 長 松山 忠壮(土14回)東急建設株  
事務局 長 松久 房夫(土19回)札幌市下水道局

### 東京支部

支 部 長 古村 和夫(土3回)古村建設株

### 東海支部

支 部 長 平野 卓(土3回)  
東京エンジニアリング(株)名古屋支社  
事務局 長 河野 叶(土6回)秋芳技建株

### 九州支部

支 部 長 湯村 筑後(建10回)福岡県土木部  
事務局 長 陶山 順一(建15回)株陶山建設

### 四国支部

支 部 長 谷久 嘉典(土8回)柳谷久工務店  
事務局 長 北岡 保之(化14回)高松市役所

## 校友会報 第54号

発行部数 36,000部

発 行 所 日本大学工学部校友会  
福島県郡山市田村町徳定字中河原1  
郵便番号 963-11  
電話番号 (0249)44-1327  
振替口座番号 郡山5-1990

発 行 日 平成3年3月1日  
発行者代表 会 長 武 田 仁 幸  
編集者代表 事務局 長 橋 本 寛